

Global Logistics



第41期 国際物流管理士 資格認定講座

International Logistics Master Course

第41期 国際物流管理士資格認定講座開催日程(2019年度)

- 第1単元：9月10日(火)・11日(水)
- 第2単元：9月11日(水)・19日(木)・20日(金)
- 第3単元：10月2日(水)・3日(木)
- 第4単元：10月9日(水)
- 第5単元：10月10日(木)・11月7日(木)・8日(金)
- 第6単元：11月19日(火)・20日(水)
- 第7単元：12月10日(火)・11日(水)
- 第8単元：1月22日(水)・23日(木)
- 第9単元：2月5日(水)・6日(木)
- 認定証授与式：3月4日(水)
- 現地見学：10月11日(金)

本講座ではこのような人材を育てます

- 国際物流の基本から法規制や最新動向まで理解し、海外でのサプライチェーンの構築・改善ができる人材
- 顧客に対して国際物流を含めた企画提案ができる人材
- 将来の海外駐在要員としてグローバル視点を持ってマネジメントができる人材

ぜひ、貴社内の下記に該当する部署にも本パンフレットをご回覧ください

製造業:国際物流部・グローバル企画部・海外営業推進部・SCM部 等

物流事業者:国際事業推進部・グローバル統括部・海外オペレーション部・通関保税部 等

第41期『国際物流管理士資格認定講座』開催にあたって

新興国における経済が高成長を続け、世界規模での最適地調達、最適地生産など企業活動のグローバル化が進展し、企業経営においては、国際競争を勝ち抜くためのグローバルロジスティクスの重要度が高まっております。

製造業においては、グローバルな視点に立った生産拠点、物流拠点の配置による、消費地へのシームレスな物流構築のため、国際物流のシステム革新やローコストオペレーションの推進が不可欠であると認識されています。

また、物流企業においては、国際物流の効率化を支援するためのシステム提案型のサービス提供が不可欠となり、顧客である荷主のグローバルロジスティクス構築のために果たす役割が大きくなってまいります。

このような状況のもと、産業界では国際競争力強化のため、国際物流の専門知識と管理技術を習得したスペシャリストが求められております。

「国際物流管理士資格認定講座」は、わが国唯一の国際物流のスペシャリスト育成講座として1979年の開講以降、1,554名の「国際物流管理士」を輩出し、産業界より非常に高い評価をいただいております。

第41期を迎える本講座は、広範に渡る国際物流について、概論から応用までわかりやすく解説するとともに、企業事例や物流施設見学、グループ討議やケーススタディなどを取り入れた、実務に直結するカリキュラム構成としております。

国際物流のスペシャリストの育成に、ぜひ本講座を積極的にご活用くださいますようお願い申し上げます。



能力開発委員会 国際物流管理士専門委員会
委員長 石原 伸志
(東海大学 海洋学部 客員教授)

国際物流人材に関して、こんな悩みはありませんか？

- 国を跨ぐ調達・生産・物流といったサプライチェーンの構築・改善について企画・立案・実践・見直しができる人材を育てたい。
- 国際物流の現状を把握した上で、課題の設定や解決に向けた中心的な役割を担うリーダーを育成したい。
- 顧客のニーズを的確に捉え、シーズの発掘を積極的に行うことができる、企画提案力を持った人材を育成したい。
- 顧客に対し、国際物流を含めた複合提案ができるような人材を育てたい。
- 多国間取引の増加に伴い、国際物流の基本に加えて最近のFTA/EPAの条約等の国際法規・ルールを習得した、ロジスティクスの円滑化に貢献できる人材を育てたい。
- 次代の海外駐在要員として、各国の物流事情の把握、現地マネジメント手法を身につけた、グローバル視点を持つ人材を育てたい。

本講座では、実務への応用が可能なスキルを身につけていただきます

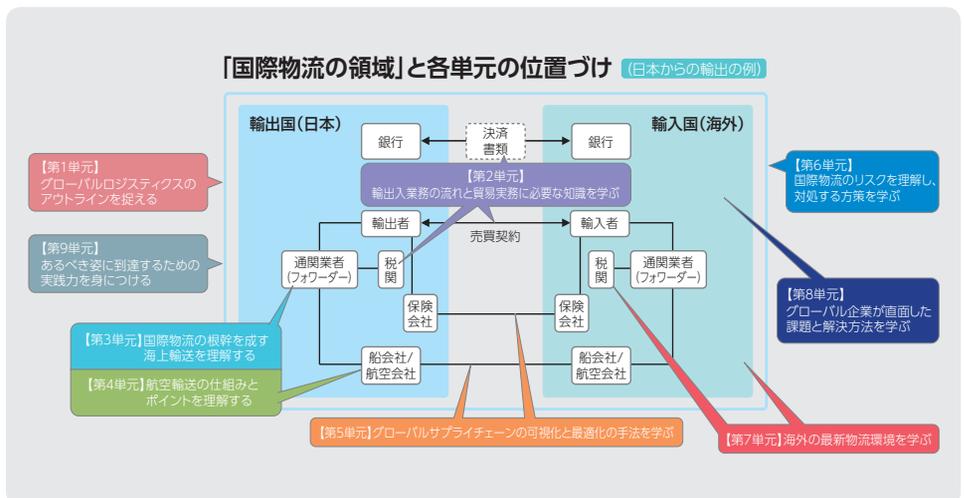
- 国際物流に関する**専門知識**や**マネジメント技術**、**最新情報**や**企業事例**を総合的に学びます！
- **グループ討議**や**ケーススタディ**を通じて、**実践力**を習得します！
- **様々な業種・役職**の方々との交流を深め、実務では得がたい**ヒューマンネットワーク（人脈）**を構築します！
- **世界**で使える**わが国唯一の国際物流スペシャリスト**の証「**国際物流管理士 International Logistics Master**」の資格が得られます！

国際物流管理士に期待される到達レベル

- ① 国際物流やグローバルロジスティクスに関する専門知識を有し、実務で活かすことができる。
- ② 自社の物流の現状を把握し、問題発見や解決すべき課題を設定することができる。
- ③ 課題解決策を立案し、国内外問わず、社内内外の関係者の理解と協力を得ながら実行することができ、さらにその効果を評価することができる。
- ④ グローバルレベルで全体最適を志向し、幅広い視点で新たな事業やサービスを企画・提案することができる。
- ⑤ 海外赴任先において、異なった価値観や習慣を持つ現地スタッフに対して、指導や権限委譲を行いながら、チームとしてまとめ、実務を遂行することができる。



第41期国際物流管理士資格認定講座カリキュラム



第41期 国際物流管理士資格認定講座 カリキュラム

*講師の都合等によりスケジュールに変更が生じる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

会場 JILS 研修室

第1単元 グローバルロジスティクスのアウトラインを捉える

国際物流からロジスティクス、サプライチェーンへの展開等を学び、次単元以降の講義を理解するための基盤作りを行う。また、グループ討議を通じて、課題解決への実践的な考え方を学ぶとともに、異業種メンバーによる交流とヒューマンネットワークの形成を図る。

(敬称略)

日程	時間	講義テーマ	講義内容	講師
2019年 9月10日(火)	9:30~9:45	開講式		
	9:45~11:45	国際物流とロジスティクス	国内物流との違い、国際物流の形態の変化 国際物流で求められる知識とは	石原 伸志 東海大学 海洋学部 客員教授
	11:50~12:20	講座オリエンテーション	修了要件・認定要件・課題等、 本講座の規程に関する説明をします	事務局
	13:20~17:00	グループ討議 国際物流の現状・自社の課題認識と解決の考え方	国際物流の現状や自社の課題を認識し、 グループ内で原因の分析や解決に向けた 取り組みについて検討していただきます	大森 幹雄 日本ロジスティクスシステム協会 JILS アドバイザー
	17:00~17:30	昨年度総代による講演	講座を受講するにあたってのポイント、 体験談やアドバイス	内海 春 日東電工(株) ロジスティクス統括部 グローバル企画部 戦略企画グループ
	17:30~19:00	キックオフミーティング (交流会)		
9月11日(水)	9:30~13:00	グループ討議 (続き) 国際物流の現状・自社の課題認識と解決の考え方	1日目に引き続きグループ討議を行い、 その後検討結果を発表していただきます	大森 幹雄 日本ロジスティクスシステム協会 JILS アドバイザー

会場 JILS 研修室

第2単元 輸出入業務の流れと貿易実務に必要な知識を学ぶ

国際物流に携わる上で、通関、インコタームズ、決済、外国為替、国際ファイナンス等、輸出入に関わる事項の習得は不可欠である。本単元では、ウィーン売買条約等の最新情報を盛り込みながら、輸出入業務について、基礎から分かり易く解説する。

(敬称略)

日程	時間	講義テーマ	講義内容	講師
9月11日(水)	14:00~17:00	国際マーケティングとインコタームズ、ウィーン売買条約	トレード・タームズ (貿易取引条件) とは、 インコタームズ2010の概要、ウィーン売買 条約のポイント、国際マーケティング、 サービスマーケティング	小林 二三夫 横浜商科大学 商学部 特任教授 地域産業研究所 所長
9月19日(木)	9:30~12:30	FTAとEPA、原産地規則、 AEO 制度	FTAとEPAとは、EPAのメリット、わが 国が締結しているFTA/EPA 原産地規則の 概要・適用税率、適用の条件、AEO 制度の 概要	宮崎 千秋 神奈川大学 非常勤講師 前「公益財団法人日本関税協会 調査・研究グループ」担当部長
	13:30~16:30	輸出入における通関業務と 保稅手続き、通関システム	輸出入通関について、関係法令について、 三国間貿易について、輸入貨物の課税価格 の決定、確認のポイント、保稅制度、非違 事例	井川 武志 山九(株) LS事業本部 国際・港運事業部 輸出入管理部 通関・保稅管理グループ グループマネージャー
9月20日(金)	9:30~16:30	貿易売買契約と各種決済方法、 外国為替とリスクヘッジ、 国際ファイナンス	貿易取引の流れ、信用状統一規則、銀行の 外国為替業務、輸出入取引の流れと留意す べきポイント、リスクヘッジ	井上 泰伸 日本貿易学会
レポート提出日			2019年10月7日(月) 13:00まで	

第3単元

国際物流の根幹を成す海上輸送を理解する

海上貨物輸送は全世界における貿易の約9割で用いられており、国際物流を進める上で不可欠となっている。本単元では、海上貨物輸送の概論からフォワーダー、荷主企業の取り組みまで解説する。

(敬称略)

日程	時間	講義テーマ	講義内容	講師
2019年 10月2日(水)	9:30~12:30	海上貨物輸送概論	船で貨物を輸送することは、各輸送手段とその特質 コンテナの荷動き統計、海運業の特殊性、今後の課題	石原 伸志 東海大学 海洋学部 客員教授
	13:30~15:30	海上個品運送契約／船荷証券／ Sea Waybill／複合運送証券	運送契約、船荷証券、共同海損と荷渡、海上運送状、 船荷証券統一条約、Japan COGSA の概要、船荷 証券約款、複合運送証券	橋本 隆明 日本郵船(株) 法務・フェアトレード推進グループ グループ長代理
	15:40~17:10	国際物流におけるコールド チェーンと特殊・冷凍コンテナ	国際物流におけるコールドチェーン、冷凍コンテナの概要、 取り扱いにおける注意点、新しい輸送技術について	高野 良子 オーシャン ネットワーク エクスプレス ジャパン(株) マーケティング統括部 コンテナ技術課 リーファー技術チーム
10月3日(木)	9:30~12:30	NVOCC と国際複合輸送	フォワーダーとNVOCCの違い、国際複合輸送ルートの特徴 と問題点、輸入フォワーディング業務の流れ、仲介貿易、運賃	桜井 正広 (株)日新 国際営業第一部 部長
	13:30~15:20	海上運送における特殊貨物 (危険物) 概論	危険物海上輸送の基礎知識(クラス・容器等級・ 試験方法と判定基準等) 容器包装、運送手続き (表示方法・運送書類への記載事項等)、運送方法	飛延 孝男 一般社団法人日本海事検定協会 安全技術サービスセンター 上席危険物検査員
	15:30~17:20	国際物流におけるコスト削減に 向けた取り組み ～海上輸送を中心として～	海上コンテナと今後の貿易、国際物流におけるコスト 削減の事例、物流費削減の手法、コンテナラウンド ユース事例、内陸デポの現状と課題	荻原 克郎 日触物流(株) 管理本部 海外オペレーショングループ 兼 企画開発グループ シニアアドバイザー
	17:20~17:30	第5単元グループ討議 事前準備レポート出題	第5単元のグループ討議を前に、受講者の方々にテーマを出題し、 レポートにまとめていただくことで、討議前の準備をしていただきます	事務局
レポート提出日		2019年10月24日(木) 13:00まで		

第4単元

航空輸送の仕組みとポイントを理解する

商品ライフサイクルの短縮化やグローバルにおける在庫の最小化への対応を進める上で、航空貨物輸送の果たすべき役割は大きい。本単元では、航空貨物輸送の概論からインテグレーターやフォワーダーの取り組みまで、分かりやすく解説する。

(敬称略)

日程	時間	講義テーマ	講義内容	講師
10月9日(水)	9:30~13:30	航空産業概論、航空貨物輸送概 論、航空協定、航空運送約款と 航空運送状、航空貨物運賃	航空輸送の仕組み(メリット・種類・ 業務フロー等)と輸送環境、航空輸送 に関わる条約・約款、運賃の算出方法・ Chargeable Weight の決定方法	土川 孝 (株)ANA 総合研究所 人創り事業部 主席研究員 山内 一郎 前 ANA Cargo オペレーション企画部 安全教育・訓練推進課 マネジャー
	14:30~17:30	フォワーダーとインテグレーターの グローバルロジスティクス展開	フォワーダーとは、日本のフォワーダー の紹介、IT システムの紹介、フォワー ダーの展開事例と今後の可能性	戸澤 正樹 (株)日通総合研究所 リサーチ & コンサルティングユニット 顧問
レポート提出日		2019年11月1日(金) 13:00まで		

第5単元

グローバルサプライチェーンの可視化と最適化の手法を学ぶ

物流・ロジスティクスの高度化、効率化を考える上で在庫管理や SCM、3PL は重要なテーマである。本単元では、それらの理論とともに実例を交えて解説する。また、これまでの単元で習得した事項を踏まえたグループ討議にも取り組む。

(敬称略)

日程	時間	講義テーマ	講義内容	講師
10月10日(木)	9:30~12:30	国際物流におけるコスト と KPI の算定と既存業務 プロセスの見直し	KPI に必要な要素、「現地化」とロジスティ クスの転換事例、プラットフォーム戦略、 業務プロセス改革担当者の条件、 グローバル・ロジスティクスミックス	橋本 雅隆 明治大学 専門職大学院 グローバル・ビジネス研究科 教授
	13:30~15:30	サプライチェーン最適化の ためのシステム構築	SCMとは、SCMの重要性、SCM最適化の ためのシステム、SCM最適化のための可視 化・解析・改善方法、SCM最適化事例	(株)NTT データ 製造 IT イノベーション事業本部 コンサルティング&マーケティング事業部 ビジネスコンサルティング統括部コンサルティング担当 課長 山口 薫 / 課長 横山 真由子
	15:40~17:00	SCM 改革の実践事例	改革の目的・動機付け、物流改善の着眼点、 活動進捗管理の方法を現地人にどのように伝えるか	長澤 由之 ジヤトコ(株) SCM 推進部 SCM 推進課 課長補佐
11月7日(木)	9:30~12:30	3PL 概論	3PLとは、日本と海外の3PLの現状、なぜ 3PLなのか、3PL化で注意すべき点・必要 なこと、国際物流の3PL化	中谷 祐治 ロジ・ソリューション(株) 常務取締役 戦略コンサル事業部長
	13:30~15:00	国際物流における 3PL 導入事例	荷主から見る3PL戦略の策定要素・選定基準・ 審査イメージ、グローバル3PL導入事例	田中 秀憲 ゾエティス・ジャパン(株) 生産・物流管理部 部長
	15:10~16:40	国際物流における 3PL の実践事例	3PLの考え方、国際物流における3PL受託事例 荷主の課題解決のためのプロセス、今後の展望	中山 大輔 日本通運(株) オートモーティブ事業支店 事業推進部 グローバル営業推進グループ 次長
11月8日(金)	9:30~17:30	グループ討議	設定されたいくつかのケースに基づき、事前準備 レポートでの考察を踏まえて、グループ内で 解決に向けた方策を検討していただきます	中谷 祐治 ロジ・ソリューション(株) 常務取締役 戦略コンサル事業部長
レポート提出日		2019年11月29日(金) 13:00まで		

現地見学

国際物流の最前線を、見学して感じる

(敬称略)

日程	時間	講義テーマ	講義内容	講師
2019年 10月11日(金)	13:00~15:00	現地見学/ 羽田空港 貨物ハンドリング施設	現地を見学しながら、業務の流れについて説明をいただきます ※本プログラムは自由参加となり、資格認定規程には含まれません	(株) ANA Cargo
	15:45~17:00	現地見学/ 大井埠頭 コンテナターミナル		日本郵船(株)

| 会場 JILS 研修室 |

第6単元

国際物流のリスクを理解し、対処する方策を学ぶ

企業活動におけるリスクマネジメントの重要性はますます高まっている。本単元では、国際物流におけるリスクの概要と、特に重要となる貨物事故防止対策、並びに貿易貨物保険とクレーム手続のポイントについて解説する。

(敬称略)

日程	時間	講義テーマ	講義内容	講師
11月19日(火)	9:30~12:00	リスクマネジメント概論	物流に関わるリスクとは、リスクマネジメントとは、基本的な進め方(リスク特定・分析・評価)と留意点、各企業の取り組み事例	田代 邦幸 ミネルヴァベリタス(株) 経営コンサルティング部 東京支社長
	13:00~15:00	国際物流における リスクマネジメント事情	昨今のリスク事象、リスクアセスメントとリスクマネジメントの考え方、グローバル企業にみるリスクマネジメント活動	原 敬徳 SOMPOリスクマネジメント(株) 執行役員 コーポレート・ リスクコンサルティング部長 首席コンサルタント
	15:10~16:40	物流 BCP	災害とロジスティクスの関係、BCPの考え方と重要性、BCP策定の手順やポイント	興村 徹 日本ロジスティクスシステム協会 JILS 総合研究所 副所長
11月20日(水)	9:30~12:30	国際物流におけるロスプリベンション	リスクマネジメントの重要性、効果的なロスプリベンション国際物流クレームの現状と特殊リスク、ロスプリベンション検討の実例	能勢 正貴 一般社団法人日本海事検定協会 千葉事業所 事業所長
	13:30~17:00	貿易貨物保険とクレームの実務	外航貨物海上保険の特色、貨物海上契約について(約款の説明)、貨物海上保険におけるリスクの判定と保険料率の算定、クレーム手続	高野 浩司 東京海上日動火災保険(株) 海上業務部 貨物営業支援グループ 専門次長(法規・約款担当)
レポート提出日		2019年12月6日(金) 13:00まで		

| 会場 JILS 研修室 |

第7単元

海外の最新物流環境を学ぶ

物流コストを削減しつつ、高品質な国際物流を構築するためには、海外の物流状況を把握することが不可欠である。本単元では、各地域における物流インフラ、通関等の物流事情について、最新事情を盛り込みながら解説する。

(敬称略)

日程	時間	講義テーマ	講義内容	講師
12月10日(火)	9:30~11:30	インドの最新物流事情	インド市場の魅力(消費地・生産地・物流業等の観点から)、インド物流の実態・他国との比較、インドで成功する鍵は	大森 幹雄 日本ロジスティクスシステム協会 JILS アドバイザー
	12:30~14:30	欧州の最新物流事情	欧州における物流事業の取り組み事例、EUの概要と日本との関係、各国のインフラ事情(航空・海上)、地域別の物流事情	講師調整中
	14:40~16:40	米国の最新物流事情	米国貨物輸送の概観、物流にとって重要な都市と物流システムの展開、米国の輸出入制度	田阪 幹雄 (株)日通総合研究所 リサーチフェロー
12月11日(水)	9:30~12:30	東南アジアの最新物流事情	日本・ASEANを取り巻く現状、ASEAN 新興国が注目される理由、ASEAN 域内の産業別動向(コールドチェーン等)、ASEANの今後	石原 伸志 東海大学 海洋学部 客員教授
	13:30~16:30	中国の最新物流事情	中国経済と物流事情、中国物流の変遷、中国物流の難しさ、保税制度の重要性、関連規制の説明、事例の紹介	栗田 幸武 (株)アルプス物流 取締役 営業本部副本部長 第二営業推進部長 海外事業・輸出入事業担当

第8單元

グローバル企業が直面した課題と解決方法を学ぶ

経済成長が著しい中国や東南アジア等の新興国では、現地における物流構築・改善の重要性がますます高まっている。本単元では、海外現地においてこれらの取り組みを進める上でのポイントについて解説する。

(敬称略)

日程	時間	講義テーマ	講義内容	講師
2020年 1月22日(水)	9:30~10:30	客観試験	第1~6単元までの各講義内容から出題	事務局
	11:00~13:00	ITによる国際物流の見える化	可視化すべき情報は何か、各プレイヤーが必要とする情報、統合物流システムの紹介、運用上の課題と展開への示唆	寺田 猛史 鴻池運輸(株) 経営企画本部 経営改革推進部 部長
	14:00~17:00	海外現地における人材マネジメント方策	人事領域の経営課題、日本のマネジメントの問題点とは、グローバルビジネスリーダーの戦略思考	町田 秀樹 (株)アスピレックス 代表取締役社長
1月23日(木)	9:30~12:30	SCMの視点から取り組む海外現地における改善活動	各地で直面していた物流課題と解決に向けた取り組みの紹介、SCM・ロジスティクス管理のあり方・業務診断のチェックポイント	魚住 和宏 SCMソリューションデザイン 代表 神奈川大学 経済学部 非常勤講師
		海外駐在における駐在員の心得	海外駐在員が遭遇しやすいリスク(私生活・仕事)、バランスシートの見方、物流管理のあり方	
	13:30~15:30	海外現地における物流構築・改善の実例①	三菱電機のロジスティクス概要、改善事例、グローバル、および中国現地での取り組み事例	中丸 睦美 三菱電機(株) ロジスティクス部 推進グループ
	15:40~17:40	海外現地における物流構築・改善の実例②	各地におけるインフラ・ビジネス環境の現状認識、課題と認識・把握と解決に向けた取り組み事例	住友商事(株)

会場 タイム 24ビル

第9單元

あるべき姿に到達するための実践力を身につける

グローバルな事業展開を行っている企業のロジスティクス改革をテーマに据えたケーススタディにグループで取り組む。サプライチェーンマップ分析や在庫分析等、SCMの視点に立った課題抽出方策や改革・改善技法を学ぶ。

(敬称略)

日程	時間	講義テーマ	講義内容	講師
2月5日(水)	9:30~18:00	ケーススタディ 「グローバルロジスティクス改革」	グローバルな事業展開を行っている企業のロジスティクス改革をテーマに、サプライチェーンマップ分析や在庫分析等、SCMの視点に立った課題抽出方策や改革・改善技法をグループ討議を通じて学んでいただきます	講師調整中
2月6日(木)	9:30~17:00			

会場 JILS 研修室

資格認定証授与式

日程	時間	資格認定証授与式 / 懇親会	資格認定証の授与
3月4日(水)	15:00~17:30		

2018年度(第39期)の実施風景



資格認定について

修了基準

- i) 14 日以上出席すること。
- ii) 該当する単元で出題されるレポート試験を全て受験していること。
- iii) 客観試験を受験していること。
- iv) 第9単元「ケーススタディ」に2日間出席すること。

合格基準

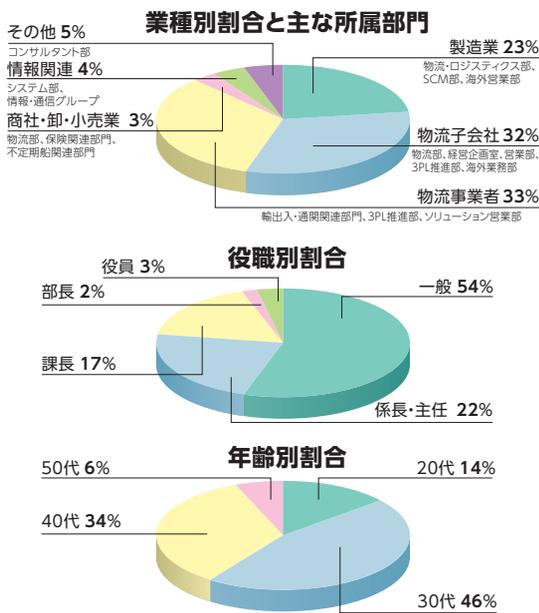
	①レポート試験 (5回)					②客観試験	③欠席減点	④総合平均点 ((1+2)÷6)-③
	第2単元	第3単元	第4単元	第5単元	第6単元			
配点	100点	100点	100点	100点	100点	100点	1日欠席:1点減点 半日欠席:0.5点減点	100点
合格基準	70点以上	70点以上	70点以上	70点以上	70点以上	70点以上		70点以上
提出日/実施日	10月7日	10月24日	11月1日	11月29日	12月6日	1月22日		

※資格認定規程の詳細は、講座の開講時に、事務局よりご説明いたします。

受講者の所属 (例)

製造業：国際物流部・グローバル企画部・海外営業推進部・SCM部 等
 物流事業者：国際事業推進部・グローバル統括部・海外オペレーション部・通関保税部 等
 ぜひ、貴社内の上記に該当する部署へ本パンフレットをご確認ください。

過去5年間の国際物流管理士資格認定講座 受講者属性



第40期国際物流管理士資格認定講座 資格取得者の声

内海 春氏 (日東電工株式会社 ロジスティクス統括部 グローバル企画部 戦略企画グループ)

日東電工 (株) のロジスティクス部門は、多岐にわたる事業部や世界各地に展開するビジネスを部門横断的に統括し、グループ全体で最適なロジスティクスを構築できるよう戦略・企画を練る役割を担っております。そこでは、国際物流に関する広範かつ高度な専門知識が必要とされるため、本講座を受講いたしました。

本講座では、貿易実務の知識だけではなく、リスクマネジメント、BCP の考え方、海外で改善を行う際の心構えや人材マネジメントなど、グローバルに SCM 改善を行っていく上で必要な知識・スキルを広く学ぶことができました。講師の方々のバックグラウンドも多岐にわたっており、各講師の知見と実践に基づく講義は市販のテキストでは決して学ぶことができない濃い内容でした。しかし、この講座の何よりの魅力は、日常の業務では出会うことのなかった様々な企業の受講者の方と共に学ぶことができる点です。グループディスカッションでは各受講者の立場や経験から多様な意見が出て、新たな気付きが多くありました。

本講座で得た知識や考え方を糧にして、海外でのロジスティクス改善の実践を積み、荷主企業における国際物流のプロフェッショナルを目指して参ります。

国際物流管理士専門委員会 委員名簿

本講座は、公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会が主催し、第一線でご活躍されている学識経験者や実務家等で構成された能力開発委員会 国際物流管理士専門委員会によって企画・運営されています。

(敬称略・順不同)

委員長	石原 伸志	東海大学 海洋学部 客員教授
副委員長	小林二三夫	横浜商科大学 商学部 特任教授 地域産業研究所 所長
委員	魚住 和宏	SCMソリューションデザイン 代表・神奈川大学 経済学部 非常勤講師
//	土川 孝	株式会社 ANA 総合研究所 人創り事業部 主席研究員
//	山縣 敏憲	港湾職業能力開発短期大学校 横浜校 非常勤講師
//	加藤 剛	住商グローバル・ロジスティクス株式会社 国際事業本部副本部長 兼 海外事業部長
//	高野 浩司	東京海上日動火災保険株式会社 海上業務部 貨物営業開発グループ 専門次長 (法規・約款担当)
//	荻原 克郎	日触物流株式会社 管理本部 海外オペレーショングループ 兼 企画開発グループ シニアアドバイザー
//	橋本 隆明	日本郵船株式会社 法務・フェアトレード推進グループ グループ長代理
//	中丸 睦美	三菱電機株式会社 ロジスティクス部 推進グループ

受講申込書

申込FAX:(03)3436-3190

第41期国際物流管理士資格認定講座		開催期間:2019年9月～2020年3月		BA1912			
(フリガナ) 会社・事業所名		<input type="checkbox"/> 会 員 <input type="checkbox"/> 会員外		支払予定日(開催後になる場合はご記入をお願いいたします) 月 日 支払予定			
(フリガナ) 派遣責任者		所属・役職名					
勤務先住所 〒 -		T E L : - - F A X : - - E-mail :					
(フリガナ) 受講者1	生年月日(西暦) 年 月 日	所属・役職名			受付 NO		
勤務先住所 〒 -	T E L : - - F A X : - - E-mail :						
有資格: <input type="checkbox"/> 物流技術管理士補 <input type="checkbox"/> 物流技術管理士 <input type="checkbox"/> グリーンロジスティクス管理士 <input type="checkbox"/> 物流現場改善士							
単元聴講	1	2	3	4	5	6	7
(フリガナ) 受講者2	生年月日(西暦) 年 月 日	所属・役職名			受付 NO		
勤務先住所 〒 -	T E L : - - F A X : - - E-mail :						
有資格: <input type="checkbox"/> 物流技術管理士補 <input type="checkbox"/> 物流技術管理士 <input type="checkbox"/> グリーンロジスティクス管理士 <input type="checkbox"/> 物流現場改善士							
単元聴講	1	2	3	4	5	6	7
名		円		(請求書は原則として、合計金額を派遣責任者の方にお送りいたします。その他、請求先のご希望は「協会への連絡事項」へご記入ください。)			
協会への連絡事項		受付日	受付日	受付日			

受講申込規程

受講料

- 当協会会員……………受講料400,000円+消費税/1名
- 会 員 外……………受講料500,000円+消費税/1名

有資格者優待

当協会の認定する下記資格を持つ方は優待料金にてご受講いただけます。
(対象:「物流技術管理士補」「物流技術管理士」「グリーンロジスティクス管理士」「物流現場改善士」)

- 当協会会員……………受講料350,000円+消費税/1名
- 会 員 外……………受講料450,000円+消費税/1名

単元聴講

特定の単元のみご受講いただくことができる制度です(第9単元を除く)
現地見学は第4単元に付随するプログラムです。
(1単元・1名様あたりの金額:消費税抜き)

- 当協会会員 第5単元…75,000円/単元 第5単元以外の各単元…50,000円/単元
- 会 員 外 第5単元…84,000円/単元 第5単元以外の各単元…56,000円/単元

受講料に含まれるもの

①テキスト、資料代 ②審査料

定員 36名(定員になり次第、締め切らせていただきます。)

受講申込方法

- WEBまたはFAXで受け付けています。

WEBの場合 当協会ホームページの本プログラムのページよりお申し込みください。

トップ→資格講座・セミナー→資格認定講座→国際物流管理士資格認定講座

※当協会のホームページは www1.logistics.or.jp または「JILS」で検索してください。

FAXの場合

上記の申込用紙に必要事項を明記のうえ、FAXにて事務局までお申し込みください。
「参加証」と「請求書」は受講日の約1週間前までにお送りいたします。お手元に届かない場合には、ご連絡をお願いいたします。
本講座の受付は、先着順、定員になり次第、締め切らせていただきます。あらかじめご了承ください。詳しくは事務局までお問い合わせください。

【開講日直前のお申し込みについて】

- 定員に余裕のある場合は直前での受付も行いますので、事務局までお問い合わせください。

【受講料支払い方法】

- 請求書が届き次第、指定の銀行口座にお振込みください。
- お支払いは原則として開催前日までをお願いいたします(開催後になる場合は、支払予定日を申込書の支払予定日欄に明記してください)。
- 振込手数料は、お客様にてご負担願います。

【お願い】

- 開講前に受講予定の方のご都合がつかなくなった場合は、全単元を代理の方が受講してください。なお、代理の方のご出席も不可能な場合は、下記の規定によりキャンセル料を申し受けますので、あらかじめご了承ください。
- (注)キャンセルはFAXでのご連絡のみ申し受けます。

【キャンセル規定】

- 開催7日前～前々日(開催初日を含まず起算)(消費税を除く)受講料の30%
- 開催前日および当日……………(原則として消費税を除く)受講料の全額

【ご注意】

- テキストは会場でお渡しいたします。(テキストのみの販売等は一切行っておりません)
- 講義中の撮影・録音・録画は禁止いたします。

【申込先/プログラム内容のお問い合わせ先】

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会(JILS) JILS総合研究所
〒105-0022 東京都港区海岸1-15-1スズエベイディウム
TEL (03)3436-3191 FAX(03)3436-3190

【会場案内】

- 公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会(JILS)本部 研修室
東京都港区海岸1-15-1スズエベイディウム TEL (03)3436-3191
- タイム24ビル
東京都江東区青海2-4-32 TEL(03)5531-0024

【個人情報のお取扱いについて】

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会(JILS)では、個人情報の保護に努めております。詳細は、当協会のプライバシーポリシー(<https://www1.logistics.or.jp/privacy.html>)をご覧ください。お客様にご記入いただきました個人情報は、本講座に関する確認・連絡・受講者名簿の作成および当協会主催の開催催し物のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

JILSホームページ <https://www1.logistics.or.jp>